

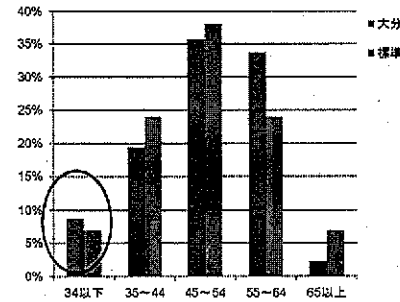
【説明】

組織的に取り組む授業改善

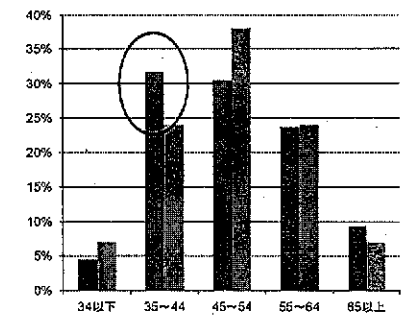
大分県教育庁義務教育課

H26年度 大分県学力定着状況調査  
5段階分布(中2 H26.04.15実施)

【知識】



【活用】



32

英語好きですか？

	平成26年		
	H25大分県	大分県	全国
英語の勉強が好き	53.1	53.7	55.9
英語の授業がわかる	55.3	57.0	59.9

中学校 質問紙調査の結果

【標準スコア】から見る大分県の中学生の現状

<良好な項目> ・規範意識  
・生活習慣 ・学習習慣

<問題のある項目> ・感動体験 ・問題解決能力  
・いじめのサイン ・思いを伝える力 ・対人ストレス

指導改善のヒント

■生徒の発言や活動の時間を確保した授業の推進

※自分の意思を発表したり質問に答えたりする回数が少ない(全国比-18.9ポイント)

■話し合い活動の充実

※積極的な意見の発言(全国比-6.9ポイント)  
意見が合わないときの納得いく提案(全国比-4.1ポイント)

■単元の学習を見通した「予習」の仕方の指導

※テストのやり直しをする(+15.6)

言語活動の充実



自己表現・自己決定・共感的人間関係



学習意欲の向上

# 新大分スタンダード

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の魅力ある授業

- 1 1時間完結型  
(「めあて」と「振り返り」のある授業)
- 2 板書の構造化・板書とノートの一体化
- 3 習熟の程度に応じたきめ細かい指導の充実
- 4 問題解決的な展開の授業  
(単元 あるいは 1単位時間)

大分スタンダードの  
ブラッシュアップ

本時のゴール、  
目指す子どもの具体的な姿から  
単位時間の授業を見直す  
※ねらいに対応した  
具体的な評価規準の設定

生徒指導の3機能を  
意識して

- ① 学ぶ意欲を引き出す課題設定  
(考えてみたいやってみてみたいや甲斐がある)
- ② 課題解決のための情報収集  
(資料検索、実験・観察、体験、話し合い等)
- ③ ②の整理分析  
(比較・分類・序列化・類推・関連付け等)
- ④ ③で考えたことや分かったことのまとめ・発信・交流
- ⑤ 学習の成果を実感させる授業や単元の振り返り・評価

- 自己決定の場の設定
- 自己存在感を与える場の設定
- 共感的人間関係を育む場の設定

## 指導改善のポイント

### ①基礎的・基本的な事項を確実に定着させる指導

- 生徒の実態を把握し、個に応じた支援
- 繰り返し使う、定期的に振り返る→スパイラル学習

### ② 単元目標を達成するための言語活動の充実

- 興味・関心・ねらいに応じた題材
- 学習者中心の活動 → 英語にふれる機会の充実
- 4技能を総合的に育成

### ③ 付けたい力を明らかにした指導と評価

- 単元目標の設定 → 生徒と共有
- 本時のねらい ⇄ 学習活動 ⇄ 評価

## 指導改善のポイント「新大分スタンダード」との関係

- I 1時間完結型  
(「めあて」と「振り返り」)
  - II 板書の構造化・  
板書とノートの一体化
  - III 習熟の程度に応じたきめ細かい  
指導の充実
  - IV 問題解決的な展開の授業  
(単元 あるいは 1単位時間)
- ① 学ぶ意欲を引き出す課題設定
  - ② 課題解決のための情報収集
  - ③ ②の整理分析
  - ④ ③で考えたことや分かったことの  
まとめ・発信・交流
  - ⑤ 学習の成果を実感させる単元の  
振り返り及び評価

- ①基礎的・基本的な事  
項を確実に定着
- ②単元目標を達成する  
ための言語活動の充実
- ③付けたい力を明らかに  
した指導と評価

お互いに認め合う環境の中で、  
自分で考え、判断し、表現し、  
達成感、成就感を味わえる授業



## 英語科における問題解決的な展開の授業

- ① 身近な興味のある題材の設定
- ② 「～することができる」ようになるための語彙・表現の蓄積
- ③ 情報の獲得⇒分析⇒思考・判断
- ④ ③で考えたことや分かったことを互いに英語で伝え合う言語活動
- ⑤ 学習の成果を実感させる単元の振り返り及び評価

学習の見通しと目標の共有

# 英語科における問題解決的な展開の授業

## NC1年 LESSON 4

竹田市立緑ヶ丘中 志賀指導教諭の実践例

- 単元名 様数形を使って伝えよう！ 萩町の「桃太郎」の魅力！
- 単元目標 萩町の特産品を英語で紹介することができる。
- 主な学習活動
  - 単元の展開（全8時間）



	学習活動	指導上の留意点
第1次 (1)	○単元の課題の確認 ・萩町の特産品について、説明しよう。	・興味・意欲を高める環境を整えておく。
第2次 (3)	○新出表現の意味・用法を理解する。 ・名詞の複数形 ・How many ~?を用いた文の構造 ・命令文	・「英語を読むことの楽しさ」を味わわせながら場面とともに英語の表現を覚えさせる。 ・学習での、動詞表現の定着を図る。
第3次 (4) 本時	○メモを取りながら、聞いた英文を復元 ○萩町の「桃太郎」を紹介する文を作る。 ○萩町の「桃太郎」を伝える。(本時) ○How much ~?の疑問文とその応答	・4技能を総合的に育成する。 ・「伝える」ことを目標に、達成感を味わうことができるようにする。

本時の学習（7/8時間）

目標：カバンの中の写真を使って、「桃太郎」を相手に伝える。

展開：①各グループでトマトを使った製品を紹介する練習をする。

- ②「桃太郎」を英語で説明し、A、Bどちらの製品が好みか尋ねる活動
- ③グループにもどり、結果を報告し合う。

### 学習の見通しと目標の共有

○指導では、新出表現が実際に使用される場面に配慮し、できるだけ具体的な内容にする。

○それらの新出表現を使用せざるを得ない、また、使用したくなるといった必然性のある活動を単元のゴール(活動)として示す。

○単元のゴールとなる活動に向けて日々の授業をつなげていくよう工夫する。

○生徒に「本単元では、最終的にどんなことを目指せばよいのか(どこを目指せばよいのか)」ということ意識させ「この1時間に行っている、この内容は、ゴールとなる活動にどうつながっているのか(どんなふうに関係するのか)」ということを考えさせるために、常に単元の最終ゴール(活動)を確認する。

## 中学校学力向上対策事業【英語】

県

Step I 組織的に進める  
外国語科授業改善協議会  
【目的】部会の活性化 及び  
PDCAサイクルの確立

Step II 中学校英語科  
指導力向上協議会  
【目的】①課題解決的な展開の授業実践  
を進める将来のリーダーの育成  
②実践事例・評価問題集の作成

Step III

リレー式授業改善協議会

市町村

郡市別中学校  
外国語教育  
研究協議会等

- ①指導力向上協議会参加者が作成した指導案等の検討及び実践、授業研究
- ②実践事例集に基づく、対象者全員による実践と、それを踏まえた指導案等のブラッシュアップ
- ③評価から見直す授業研究の普及
- ④部会運営の見直しと改善

## 組織で取り組む はじめの一步

### 1 CAN-DOリストの作成

- ①付けたい力の明確化
- ②4技能を総合的に育成
- ③教員が生徒と目標を共有

### 2 小中の連携

- ①Hi, friends の内容の確認
- ②相互の乗り入れ授業

